

論文審査の結果の要旨および担当者	
学位申請者	荻野 俊
論文担当者	主査 木村 卓
	副査 丸茂 幹雄
	副査 馬淵 誠士
学位論文名	<p>子どもの心理社会的発達に母親の強迫症症状、特に巻き込み行為が及ぼす影響に関する探索的検討</p> <p>(A preliminary investigation regarding the impact of OCD symptoms, especially involvement behaviors of OCD mothers, on the psychosocial development of their children)</p>
<p style="text-align: center;">論文審査の結果の要旨</p> <p>強迫症 (Obsessive-Compulsive Disorder : OCD) を有する母親による「巻き込み行為」は、子どもの心理社会的発達に影響を及ぼす可能性がある。本研究は、巻き込み行為を伴う OCD を有する母親の子どもを対象に、母親の OCD 発症時期 (出産前／出産後) の違いが子どもの心理社会的発達に与える影響を探索的に検討することを目的とした。2022 年 3 月から 2024 年 6 月に兵庫医科大学病院精神科神経科を受診し同意を得た OCD 患者の母親と、その子ども (10～18 歳) 17 組を対象とした。母親の OCD 発症時期により産前発症群 9 組、産後発症群 8 組に分類した。母親の強迫症状は Y-BOCS で評価し、子どもには CBCL、SDQ など複数の心理尺度を用いて包括的評価を行った。群間比較は t 検定または Mann-Whitney の U 検定で実施した。</p> <p>背景因子や母親の強迫症状の重症度に群間差は認められなかったが、母親の罹病期間および子どもの巻き込み曝露期間は産前発症群で有意に長かった。CBCL では、産前発症群の子どもで総得点、社会性、思考、注意の問題が有意に高値であった。SDQ では向社会的行動が有意に低値であった。一方、ADHD や不安・抑うつ、トラウマ症状には有意差は認められなかった。</p> <p>出産前の母親に OCD が発症し、幼少期から慢性的に巻き込み行為に曝露されることは、子どもの社会性や思考、注意機能を中心とした心理社会的発達に不利益な影響を及ぼす可能性が示唆された。</p> <p>母親の OCD 発症時期に着目した本研究は、早期介入および家族支援の重要性を示す知見を提供するものであり、学位授与に値する。</p>	